

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスからし種				公表日	令和 8年 3月 30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	利用者の人数やメンバーの顔ぶれを見て、分散した活動を工夫している。 田舎ゆえに使える空間が多いので、グラウンドや体育館なども活用している。	ゼロネクストワンアリーナも使用できるようになったので、伸び伸びと体を動かして活動できるように、活動場所の検討をしていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	環境の工夫と、スタッフ間の連携でスタッフの人数以上の対応を目指しています。	曜日によって利用人数に偏りがあるので、受け入れ人数の調整を行って行く。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	棚に入っているものの写真をつけたり、ホワイトボードにスケジュールを表示するなど、日々工夫を積み重ね続けています。	物が多すぎたり、整理されていないと刺激になるので、整理整頓や、片付けしやすい環境作りを心がけていく。障害特性に配慮した落ち着いた過ごせる空間にできるようにする。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	毎日、清掃員が清掃している。障害特性に合わせた落ち着いた過ごせるクールダウンスペースを確保している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	建物の状況に応じて、個別活動ができる空間づくりを工夫している。	個室の部屋のおもちゃを、みんなが使いやすいように、保管場所を検討する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	ミーティングや毎日の振り返りで必要に応じて話し合っている。	勤務形態により、ミーティングに参加できなかったスタッフには、近日中に情報共有を行うようにする。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	年に一度アンケートを行い、改善できるように努力している。	個々の利用者の目標設定や改善点をスタッフ全員で共有し、常に意識できるようにする。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	毎週業務ミーティングを行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	外部評価をしていただいたことはない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	スタッフが希望する研修について配慮しているが、業務時間の性質上、療育を休みにしないと出れない研修が多い。	療育の質の向上の為に必要とされる研修には、積極的に参加できるようにする。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	からし種のホームページ上で公開している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	支援計画作成時には、アセスメントやニーズについて、スタッフ全員で意見交換を行い、情報共有を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	リーダーが立案し、皆で検討している。話し合いで、変更もありうる。	その日のリーダーが立案したプログラムをもとに全員でミーティングをしている。集団プログラムでは対応できない個性の高い子への柔軟な対応もできるようにミーティングをより充実させていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別活動をしてから集団活動に合流するなど、個々に合わせた支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	毎日、支援前の打ち合わせを行い、役割分担等を話し合って支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	振り返りを毎日行い情報を共有し、改善につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	スタッフ間で声を掛け合いながら、子どもの成長や課題が把握しやすいような記録をとっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	半年に1回又は目標の変更が必要な時にモニタリングを行い、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	地域のお祭りや田植えなどのイベントにも参加させていただいたり、公共の施設なども利用し、余暇活動を楽しめるように工夫している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	8	0	活動内容を複数準備し、子どもが自分で選択できるように工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	利用児の担当者か、無理な時は状況を把握しているスタッフができる限り会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	工夫はしているが、学校との関係をより深くしていくことは必要。	できていないこともあるので、今後はもっと密に連絡を取り合っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3	実践できていない。	今後、必要に応じて行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	実践できていないことが多いが、必要に応じて行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	心理士が相談に乗ってくれる。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	交流する機会がなかった。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	4	療育時間と被り、出席できていないことが多い。	時間が合えば参加したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎の時に様子をお伝えしたり、適宜電話でもお話しさせていただいている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	子どもの状況に応じて、家族と情報共有をしたり、助言を行っている。	家族等が参加できる研修などの機会があれば、お知らせしていく。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に説明しているが、変更時などには、お便りなどでお知らせしている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	モニタリングや支援計画の説明時は、保護者・本人の意見や様子を情報共有し、相談して作成している。必要に応じて助言もしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	専門職や関係機関と連携しながら情報共有を行い、一緒に考えて助言や支援をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	父母の会や保護者会などはないが、長期休みに、親子参加のイベントを企画している。	夏休みのバーベキューイベントの時のように、保護者が交流できる機会を増やす工夫と、交流できるイベントがあることをわかりやすく伝える工夫をしていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	からし種オーダー票を用いてスタッフと共有し、話し合いの場を持ち解決に努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0	毎日のブログや毎月のからし種便りで活動の様子をお伝えしている。からし種便りでは、専門的な視点を取り入れた発信をしている。	ブログやからし種便りで、日々の活動の様子や目的が伝わりやすくなるように、表現やレイアウトを工夫していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0		長期休みの送迎表で、他の利用者の氏名と送迎予定情報を併記されているものを配布してしまった。以降は、道(振興局)の指導の下、運営の改善を行い、適切に管理している。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	紙に書くなど、視覚化したり電話やメールによる事前連絡を相談の上こまめに行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	長期休みのバーベキューで親子参加する療育を企画した。まちなか元気ステーションの中で、「まちかど・きっずカフェ」を行った。	今後、見学会なども計画していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	随時、勉強会を行い、知識や技術の更新をしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	BPCを策定し、消防の方に来ていただき、避難訓練や防災教育を行い、助言をいただいている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	医師の指示書はないが、保護者に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	毎年調査を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	策定している。療育物品も含め、安全管理に注意して支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	利用契約時に説明をしており、変更があった時には、お便りなどで随時お伝えしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット報告書を作成し、スタッフ間で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	事業所内で虐待防止の研修を行い、それに元づいた報告と対応をしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	2	事業所内で身体拘束の研修を行い、それに元づいた報告と対応をしている。		